

を当直長席に出し、代替注水ラインの構成に必要な弁とその場所を確認。
11日 18:35, DDFP を用い FP ラインより炉心スプレイ系 (以下, CS) を
経由した原子炉への代替注水ラインの構成を開始した。通常であれば中央
制御室の操作ですぐにライン構成が行えるが、電源がなく中央制御室では
操作ができない状況であったため、現場で手動操作を行うこととした。通
常より高い放射線量が計測されたとの情報もあり、若い運転員を行かせる
ことは出来なかった。ベテラン運転員 4 名と発電班 1 名の計 5 名は、全面
マスクに APD を着用し、照明が消えた暗闇の中、懐中電灯を照らして現場
への進入ルートを確認しながら進み、原子炉建屋に向かった。原子炉建屋
地下階で FP の電動弁 2 つ, 原子炉建屋 2 階で CS などの電動弁 3 つを手動
で開け, 20:30 頃に原子炉への代替注水ライン構成を完了した。着用してい
た APD の測定結果に変化はなかった。

- ・ 特に CS 注入弁は、手動操作用のハンドルが直径約 60cm と大きい上、弁棒
のストロークが長く、操作後は、着用していた全面マスクの中に汗がたま
っていた。

<原子炉圧力の確認>

- ・ 11 日 20:07, 中央制御室の監視計器は、電源が喪失して指示値が確認出来
ないことから、運転員は暗闇の原子炉建屋へ入域し、原子炉建屋 2 階にあ
る原子炉圧力計にて原子炉圧力が 6.9MPa であることを確認した。

<DDFP の対応状況 その 3>

- ・ 原子炉への代替注水ラインの構成が整ったことから、11 日 20:40, 運転員は
中央制御室の DDFP の操作スイッチを「停止」位置から解除したが起動し
なかった。
- ・ 現場との連絡手段がなかったため、現場と中央制御室の間に人を配置して
操作状況について連絡を取り合った。中央制御室では操作スイッチを「停
止」位置から解除し、現場では故障復帰ボタンを押し続け、11 日 20:50,
DDFP が起動したことを現場にて確認。原子炉圧力の減圧後 (DDFP の吐
出圧力が原子炉圧力を上回った状態) に注水が可能な状態となった。

<原子炉注水の水源確保>

- ・ 消火栓からの噴き出しや、変圧器防災配管からの漏えいが確認され、FP の
水源であるろ過水タンクの水がなくなる可能性があったことから、消防隊
と発電班は、漏えいを止める作業を開始。変圧器防災配管からの漏えいを
止めるために、事務本館傍にある弁を閉としたが、十分に止まらなかった